

## Q42

院内感染対策に関して医師を教育・啓発し、協力を得ることに苦労しているのですが、何とかする方法はないでしょうか？

## A

診療部(医師)は、日常診療のなかでは各診療科単位で活動している場合が多く、看護部、薬剤部、検査部などのコメディカル部門と較べて、診療部全体として行動する機会や意識が少ない傾向にあると考えられます。したがって個々の診療科の問題解決については努力を惜しみませんが、院内感染対策のような横断的活動に対して、必ずしも協力的でない場合が出てくるのだと思います。また、感染症に対する興味や知識の程度も、医師間でかなり異なっています。そのような背景のなかで、院内感染対策に関して医師を教育・啓発し協力を得るためにはどうしたらよいか、医師の立場から考えてみました。

もっとも重要な点は、院内感染対策活動を行う横断チームとしてのICTと医師との信頼関係を築くことです。そのためには、ICTのメンバーは、感染制御に関する専門的な知識、技術の習得を常に心がけるとともに、院内のサーベイランスや病棟ラウンドを通じて、実際の活動が見える形で医師と接する必要があります。どんなに細かいことでもよいので、感染制御について、顔の見える直接のコミュニケーションをとることが重要だということです。様々な相談に対して的確に答えたり、必要な介入を積極的に行っていくことが、医師からのICT活動への信頼を得、院内感染対策に興味を持ってもらえることにつながると思います。もちろん、これは医師以外の職員に対しても当てはまることです。

第二に、耐性菌や術後感染症などのアウトブレイクが発生した場合に、ICTとして迅速かつ適切に対応し、サーベイランスを行うとともに、職員の業務・手順を確認し、問題点を見つけて、現場と一緒に現場に則した対策を見つけるということです。アウトブレイクは病院や当該診療科にとっては危機ですが、当事者にとっては、解決しなくてはならない問題に直面し、自身が学習する必要性に迫られていることになるので、院内感染対策について自らが学習しようとする大きな動機づけとなります。このような場面で、ICTが事態の解決や学習のための情報を適切に与えることができれば、まさに教育のための絶好の機会となることは間違いありません。そして、こうした経験を通じて、前述したような、ICTと医師も含めた現場の職員との良好な信頼関係も形成されることになります。

第三に、新人教育です。私どもの施設では、毎年4月の全職種を対象とした新採用者オリエンテーションおよびその後の新人教育のなかで、院内感染対策やICTの活動についてのプロモーションや、手指衛生、針刺し防止対策の実習を積極的に行っています。まだ潜入観念のない新人に対する教育は、院内感染対策の重要性を意識させるための重要な機会と考えます。

教育は感染制御のための重要な手段です。ICTの活動が単なる自己満足で終わらないためにも、積極的かつ継続的に教育・啓発活動を行っていく必要があります。

(岩田 敏)